

としょかん生活

佐用町立図書館通信 No.150

2026

(令和8年)

3・4
月

すべての町民の暮らしを応援します

●編集・発行／佐用町立図書館（さよう文化情報センター内）

〒679-5301 佐用郡佐用町佐用 2585 番地

開館時間10:00～18:00

Tel: 0790-82-0874 Fax: 0790-82-0313

E-Mail: toshokan@town.sayo.lg.jp

『「まじない」の民俗 ―火の用心・病氣癒し・魔除け』

神崎宣武／著（吉川弘文館）2025年

Book Review

図書館司書おすすめの一冊

急激な家族形態の変化や社会の変容により、代々伝えられてきた習俗が忘れ去られようとしている。本書は、約四半世紀前にまじない文化の断絶を危惧した著者が、各地の代表的な文言を記録し、その歴史的背景をたどった著書の復刊である。

「まじない」とは、神仏や不可思議な力によって災いを除き、あるいは報いをもたらす術を指す。日本では江戸時代に庶民の間で盛んになり、遊戯性を帯びるほど文化として華やいだ。近代化や科学・医療の発達とともに「非科学的」と退けられるようになったものの、まじないは今なお私たちの生活に深く根ざしている。

例えば、節分の豆まき、雛祭りの「雛流し」、夏の「茅の輪くぐり」。これらは現代に息づくまじないの姿である。一方で、かつて見られた「節分の鰯の頭を軒先に刺す」といった光景は、今では見られなくなった。

科学が未発達だった時代、人は何を恐れ、何を願ったのか。地域に残るまじないからは、時代を経ても変わらない人間の切実な祈りが浮かび上がる。

「まじないは不安を安心に変える自己癒やし」という著者の視点には、深い納得感を覚える。「ちちんぷいぷい、痛い痛い飛んでゆけ」という言葉で傷口が治るわけではないが、心は確かに軽くなる。その「安心」を生み出す力こそが、まじないの本質なのではないか。先人の癒やしの世界へ誘ってくれる一冊。（蔭木）

図書館カレンダー

3月 弥生

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

4月 卯月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

■は休館です

開館時間／午前10時から午後6時

シリーズ図書館探検② 「予約、リクエスト」

第2回目は、本の「予約、リクエスト」についてです。

借りたい本が、貸出中の時は「予約」、図書館にない時は「リクエスト」をすることができます。どちらも図書館の「予約・リクエストカード」に必要事項を記入し、カウンターに出してください。

「予約」の場合は、図書館カウンターでパスワードを取得し、図書館のホームページや館内の検索パソコンから予約をすることもできます。本が返却され次第取り置きをし、お知らせします。取り置き期間は、開館日一週間です。

お早目に図書館までお越しください。

次に、「リクエスト」についてです。図書館の選書基準や蔵書状況などを元に購入するか借用するかを決めます。購入する本は、書店に注文し、用意ができ次第お知らせします。借用する本は、県立図書館や近隣図書館などからお借りし、できる限りご用意します。借用館が見つからない、館内閲覧など貸出制限がある場合もありますが、その場合も結果をお知らせしますので、お気軽に職員にお尋ねください。

絵本

『どろんこハリー』

ジーン・ジオン／文
マーガレット・ブロイ・グレアム／絵
わたなべ しげお／訳
(福音館書店) 1964年

ハリーは、黒いぶちのある白い犬で、遊ぶことは大好きですが、お風呂に入ることだけは嫌いでした。ある日、お湯を入れる音が聞こえてくると、体を洗うブラシを裏庭に隠して家をぬけ出します。そして、道路工事や線路のそば、石炭トラックの荷台で思いっきり遊んで真っ黒になったハリーは、いつのまにか白いぶちのある黒い犬になっていました。

お腹を空かせて家に帰りますが、すっかり姿が変わったハリーに家族は誰も気づきません。「ぼくがハリーだよ!」とわかってもらおうと、逆立ちや宙返りなど得意技を全部やってみせても、「ハリーみたいだけど、ハリーじゃない」と言われるばかり。

がっかりしたハリーですが、いいことを思いつきます。庭に隠したブラシを掘り出し、大嫌いだっただお風呂へ一直線に走っていきました。ブラシをくわえて「洗ってください」とおねだりし、家の人にゴシゴシ洗ってもらおうと、ようやく元の姿に戻ることができました。

シンプルな色使いで描かれた素朴な絵が、ハリーの気持ちを生き生きと伝えています。どろんこになるまで遊び、気づいてもらおうと奮闘し、そうして最後は安心して眠りにつく。そんな無邪気でユーモアあふれるハリーの冒険に引き込まれます。(末谷)

児童書

『エヴァが目ざめるとき』

ピーター・ディッキンソン／作
唐沢則幸／訳
(徳間書店) 1994年

人口が爆発的に増加し、環境が破壊され、ほとんどの野生動物が絶滅した未来。事故にあい、二百日の眠りから目覚めた少女エヴァは、自分が変わってしまったことに気が付いた。身体を激しく破損し、回復が見込めなかったため、

「ニューロン記憶理論」が処置されていた。それは脳から記憶だけを取り出し、別の脳に植え付けるといふ、まだヒトでの実験が行われていなかった最新の医療だった。類人猿の研究をしていた父の影響で、チンパンジーたちと生活してきたエヴァは、鏡を見た途端、自分の意識が姉妹のように育ったメスのチンパンジー、ケリーの中に入っていることを知った。

娘を失いたくない一心で手術に踏み切った両親だが、いざ実験が成功すれば、父は研究者として有頂天になり、母はチンパンジーになってしまった娘を受け入れられない。13歳のエヴァは激しいショックを受けるが、しだいに持ち前の冷静さを取り戻し、状況に向き合っていく。脳の移植とは違うため、エヴァの中にはケリーの記憶はないものの、チンパンジーの本能が存在している。

自分はエヴァか、ケリーか。人間か、猿か。「生まれ変わった自分」を愛すると決めた少女が、その答えにたどり着く様子を丁寧に描く。読み応えのあるサイエンス・フィクション。中学生から。(秋山)

☆☆☆☆☆ information ☆☆☆☆☆

くわしくは図書館まで

●リサイクル&ひと箱市

図書館の除籍本・雑誌・新聞、お家で読まなくなった本を持ち帰れます。

3月28日(土) 10:00~17:00 / 3月29日(日) 10:00~15:00

さよう文化情報センター ギャラリー ※ひと箱市への出箱は要申込

本・雑誌は各20冊、ひと箱市は10冊、一日1人最大50冊お持ち帰り可能です。

お持ち帰り用の袋や箱をご持参ください。



◀R8年度こどもの読書週間(4/23~5/12)事業▶

●よんでクイズに挑戦しよう!

本の内容に関するクイズに答えて本が多く借りられるシールをゲットしよう。

挑戦期間: 4月23日(木)~5月31日(日) 対象: 4歳~小学生

●こども日スペシャルおはなし会~ミニこいのぼりもつくるよ ※受付開始 4/1から

5月5日(火・祝) 10:30~11:30 さよう文化情報センター ギャラリー

対象: 4歳~小学生とその保護者(4歳は保護者同伴) 先着10組(要申込) 無料

R8年の標語は
「ことばがきみのはねになる」

おはなし会

★あそびせ隊 おはなし会

- ・幼児・小学生と保護者
- ・毎週土曜日/14:00~14:30

★えほんの会

- ・2~4歳と保護者
- ・毎週日曜日/10:30~11:00
- 3月のえほん

『おはながさいた』など

★おはなし会

- ・5歳~小学生
- ・毎週日曜日/11:00~11:30
- 3月のおはなし

「びんぼうこびと」

※いずれも図書館
おはなしコーナー
申し込み不要